

療養場所の違いに応じた認知症者のエンドオブライフケア充実に向けての調査研究
－COVID-19 流行の影響も踏まえて－

研究分担者 島田千穂（佐久大学人間福祉学部）

研究要旨

特別養護老人ホームにおけるエンドオブライフケアのマネジメントの実態を明らかにするため、全国の特別養護老人ホームから 3000 か所に所属する計画担当介護支援専門員を対象として調査を実施した。回収数は 711 通(23.7%)、うち回答の研究利用に同意しない 20 名と看取りケアプランを立てたことがない 93 名を除き 598 名を分析対象とした。看取りケアマネジメントで「自分が主に担当」する項目は、「ケアプラン変更」が 74.7%、「家族の不安や思いを聴く」のは 30.9%、「状態を予測して家族に説明する」のは 18.2%、「入居者の不安や思いを聴く」のは 16.6%、「状態を予測して入居者に説明する」のは 14.0%となった。他職と分担することが多く、他職と分担する人ほど終末期に関する入居者や家族との対話実践が少ないことが示された。看取りにおけるケアマネジメントは多職種協働で行われており、施設内での職種間の情報収集と共有方法の質に着目した看取りケア評価が必要と考える。

A. 研究目的

特別養護老人ホーム（以下、特養）では、要介護度の重度化が進行し、看取りケアへのニーズは、ますます大きくなっている。これまでの特養の看取りケア研究では、担い手としての看護職や介護職に着目されてきたが、本人の意思を中心とした多職種協働ケアが求められる中、調整機能に着目する必要がある。本研究は、特養の看取りケアの調整機能における施設ケアマネジャーの役割を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

全国の特養全数7,765か所から、3,000か所を無作為抽出して対象とした。施設長経由で、計画担当介護支援専門員一人に自記式質問紙調査を依頼し、2022年12月末に郵送で回収した。属性、所属施設の特性、看取りケアマネジメントでの役割(ケアプラン変更、不安や思いを聴く、状態を説明する、医師への連絡など6項目)、入居者や家族との終末期に関する対話の程度を質問した。

（倫理面への配慮）

研究でのデータ利用の同意が得られた回答者のみを対象とするなど、所属機関の倫理審査承認後、調査を行った。

C. 研究結果

（1）回答者の所属施設の属性

回答者の所属施設の属性については、定員数60人以下が39.1%、81人以上が33.3%であった。開設年は、介護保険制度以前の開設は47.2%であった。施設内死亡者の対象者数に占める割合は、60%以上が50.3%を占めた。

（2）回答者の属性

回答者の属性については、学歴は、中・高・専門学校卒が49.5%であった。基礎資格は、介護福祉士が86.8%、ヘルパー・介護職員初任者研修が22.1%、社会福祉士が18.9%であった。回答者のケアプラン担当件数は、50人以上80人未満が40.8%、50人未満が37.5%であった。現在担当する入所者の内、看取りケアの対象となっている人数は、4人以上が32.8%であった。ケアプラン作成を専任で担当しているのは52.2%であった。

（3）看取りケアマネジメント関連業務の役割分担

看取り期のケアマネジメント関連業務について、「自分が主に担当」との回答が最も多かった項目は、「入居者の状態の変化に応じてケアプラン変更」で、74.7%であった。次いで、「家族の不安や

思いを聴く」が31.1%、「入居者の不安や思いを聴く」は16.7%、「今後の状態を予測して家族に説明する」が18.4%、「今後の状態を予測して入居者に説明する」が14.4%、最も低かったのは「医師に連絡し対応を相談する」で3.3%であった。

他の職種との分担の特徴は、「入居者の不安や思いを聴く」のは介護職との分担が71.6%と多く、「家族の不安や思いを聴く」のは生活相談員と45.0%、「今後の状態を予測して入居者に説明」は看護職と56.9%、「家族への説明」は看護職と57.2%、「医師に連絡し対応を相談する」のは91.8%が看護職と分担していた。

(4) 将来どこでどのように最期を迎えたいかの対話経験

担当する入居者の内、将来どこでどのように最期を迎えたいかについて、対話したことのある割合をみると、入居者本人との対話は、「2割以下」が最も多く48.8%、「全くない」を合わせると、62.2%となった。一方、家族との対話については、「8割以上」とした人が最も多く43.3%で、6-7割と合わせると、52.5%となった。エンドオブライフの話は、入居者本人と実施するより、家族と実施している傾向が確認された。

(5) 看取り期のケアマネジメントの役割分担と対話との関連

看取り期のケアマネジメントの役割分担と、将来の人生最期の過ごし方に関する対話の実施との関連を分析した。看取り期のケアマネジメント役割のうち、今後の状態を予測して入居者や家族に説明することを「自分が主に担当」する人ほど、入居者本人との将来の対話や家族との対話の割合が有意に高くなっていた。一方、「入居者の状態の変化に応じてケアプラン変更」を他職と分担している人ほど、他の職員から聞き取る割合が有意に高くなっていた。家族の不安や思いを聴くことを、自分が主に担当している人は、家族との将来に関する対話の割合が有意に高くなり、他職員からの聞き取る割合が有意に低くなっていた。

D. 考察

(1) 特別養護老人ホームにおける看取りケアマネジメントの状況

特養は、生活施設であり、生活者としてのケアマネジメントが求められる。施設ケアマネジメン

トにおいては、単一の専門職が1人で作成することはなく、アセスメントとケアプラン作成の両方の段階でチームアプローチが必要とされる。本研究では、看取りケアマネジメント業務のうち、ケアプランの変更、入居者や家族の不安の聴きとり、状態予測と説明、医師への連絡に焦点を当て、その職種間役割分担状況を確認した。

ケアマネジャーが、「自分が主に担当」する割合が高かった項目は、「状態に合わせてケアプランを変更」することであった。「入居者の不安や思いを聴く」ことは介護職と、「家族の不安や思いを聴く」ことは生活相談員と分担する割合が高くなっていた。状態を予測して説明することは、入居者に対しても家族に対しても看護職と分担する割合が高かった。項目によって、得意とする職種と分担しながら、ケアマネジメントを行っている状況が示された。

(2) 将来の人生最期の過ごし方に関する対話実践との関連

将来の最期の迎え方についての対話を、入居者本人とはほとんどしておらず、「2割以下」と「全くない」を合わせて62.2%となった。

「今後の状態を予測して入居者に説明する」役割を主に担う人ほど、人生最期に関する対話を入居者本人とする割合が高く、「家族への説明」や、「不安や思いを聴く」役割を主に担う人ほど、人生最期に関する対話を家族とする割合が高くなっており、入居者や家族に関心を向け、関わりを持つようとすることによって、人生最期に関する対話の機会が増加する可能性が示唆された。認知症などによって対話が困難であるようにみえても、本人の体調や関わり方に注意するなど配慮することによって、今後の生活に関する本人の意思を確認することが可能な場合があり、認知機能が低下した人との対話の方法に関する実践知の蓄積が求められる。

(3) 看取りケアマネジメントの実践的課題

介護施設における看取りに必要な多職種協働が、どのような体制で進められることが良いのか、施設ケアマネジャーの役割は何かを明確にするためのケアマネジメント業務の調査を蓄積する必要があると考える。

本研究は、特養の看取りケアにおけるケアマネジメントの状況を、役割分担と事前対話の側面か

ら把握したものであり、施設ケアマネジャーの看取りへの関与を明らかにした初めてのデータである点で貴重な知見である。しかしながら今回の調査項目では、施設ケアマネジメントの全体像を十分に把握しきれておらず、部分的な実態把握に留まっている点が本研究の限界である。今後は、看取りにおける施設ケアマネジメント業務を構造化できるデータ収集が課題である。

E. 結論

特養のケアマネジャーは、看取りケアマネジメントを「ケアプラン変更」以外は他職と分担することが多く、他職と分担する人ほど終末期に関する入居者や家族との対話実践が少ないことが示された。看取りにおけるケアマネジメントは多職種協働で行われており、施設内での職種間の情報収集と共有方法の質に着目した看取りケア評価が必要と考える。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 島田千穂、会田薫子、沢田淳子、石山麗子、二神真理子、平川仁尚、斎藤民、高梨早苗、小松亜弥音、三浦久幸：特別養護老人ホームの看取りケアマネジメントにおける多職種役割分担の特徴. 厚生学の指標, 71(4), 19-27, 2024
- 2) Yamazaki S, Ono M, Shimada C, Hayashida CT, Tomioka M, Osada H, Ikeuchi T : Feasibility of a Simplified Version of Guided Autobiography in Community-Dwelling Older Adults: A Pilot Study. The International Journal of Reminiscence and Life Review, 10(1), 1-5, 2024
- 3) 島田千穂、多賀努、松家まゆみ、木田正吾：ケアマネジャーのエンドオブライフに向けた対話と看取りへの関与との関連. 老年社会科学, 45(3), 191-199, 2023
- 4) 山口乃生子、山岸直子、會田みゆき、畔上光代、河村ちひろ、星野純子、浅川泰宏、佐瀬恵理子、島田千穂：「もしも」のときの医療・ケアにおける話し合い行動意図尺度: Web 調査による信頼性と妥当性の検討. Palliat Care Res, 18(4), 213-223, 2023

2. 学会発表

- 1) 島田千穂: エンドオブライフケアにおけるケアマネジメント. 日本エンドオブライフケア学会第6回学術集会オンデマンド講演, 2023.9.16-17
- 2) Shimada C, Hirayama R, Ito M, Wakui T : Care practices respecting the autonomy of older people with dementia. Alzheimer's Association International Conference23, 2023.7.16-21
- 3) 島田千穂、伊東美緒、平山亮、木村陽子、涌井智子：施設に入居する認知症高齢者の意思に近づく介護リーダーのケア実践. 日本認知症ケア学会第24回大会, 2023.6.4-5
- 4) 島田千穂: 認知症の人は将来をいかに語るか (特別講演1), 日本認知症ケア学会2022年度東海ブロック大会, 2023.2.6-3.7 (web配信)

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし